

令和5年度学校自己評価システムシート (県立川島ひばりが丘特別支援学校)

目指す学校像	・将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校。 ・保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校。
--------	--

重点目標	1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す授業づくり 2 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための取組の推進 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	1名
	事務局	4(教職員6)名

学 校 自 己 評 価			
年 度 目 標		年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策
1	①新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底しつつ、教育活動をできる限り通常に戻し、充実させる。 ②肢体不自由教育に初めて携わる教員を多く迎える現状を踏まえ、教育観、児童生徒に対する観察眼、目標設定、計画立案及び指導方法について、同僚性を発揮し、これまで培った教育実践を継承し、発展させる。 ③新学習指導要領への対応や「流れ図」(自立活動の個別の指導計画)の作成により、根拠を明確にしながら、各教科・領域等の指導の充実を組織的に図る。 ④オンラインの取組の継続と対面指導の充実を図る。 ⑤教職員が心身共に健康で教育活動に取り組めるように、新「学校における働き方改革基本方針」に基づき、ワークライフバランスの適正化と推進に取り組む必要がある。	○組織的に教育力を向上させる	①【感染予防策対策を踏まえた教育活動の通常化】県のガイドラインに基づき児童生徒、保護者、施設、教職員への正確かつ適切な情報提供を行い、各学部、委員会等と連携しながら、教育活動を充実させる。②【教員の資質向上】研究修養とOJTに励み、児童生徒の見方や教育観、指導の技能技術、児童生徒の健康と安全の保持増進、保護者、施設との連携体制の維持向上に努める。また、報告・連絡・相談と組織的な早期対応を徹底する。③【教育活動の充実】自立活動部と連携して個別の指導計画立案に際して「流れ図」の作成を定着させることにより、担任間の共通理解に基づいた自立活動の指導の妥当性を高める。また、各教科等の系統性を意識し指導の充実を図る。④【対面とオンラインの取組の発展】情報教育部、各学部と連携して、ICT機器等を含めた教材教具の効果的な活用を実施する。また、状況に応じて校外でのオンラインを活用した同時配信授業及びオンライン授業参観等を検討・実施する。⑤【働き方改革】「働き方改革検討委員会」を開催し、負担軽減のための環境整備の在り方を検討する。校務支援システム導入のモデル校として取組み、総業務量削減に向けた取組を進める。
2	①区内小中学校等の求めに応じた支援、就学相談等については、引き続き継続発展する必要がある。 ②学校関係者による理解促進と連携強化の指摘を踏まえ、進路開拓を進める必要がある。 ③学校間交流等や支援籍学習の推進をはじめ、共生社会の形成に向けて情報発信や交流体験等を着実に実施する。引き続き、特別支援教育の理解啓発を含めた特別支援学校としての情報発信を続ける必要がある。 ④コミュニティ・スクールへの移行について継続して検討する必要がある。	○共生社会の形成に向けた取組を進める	①【センター的機能の発揮】地域からの求めに応じた支援の充実、早期の就学相談の実施、行政機関とのネットワーク会議の年2回開催、ボランティア養成講座、公開講座の実施等、本校のセンター的機能の発揮及び充実を図る。 ②【進路開拓】進路指導主事と連携し、市町の協力やハローワーク、医療的ケア、重度・重複障害の児童生徒に対応できる生活介護施設との連携を深め、生徒の進路実現に向けた取組を進める。 ③【学校間交流、支援籍学習】支援連携部と連携し、オンライン交流も含め、内容を検討し共に学ぶ機会を積極的に設定する。 ④【コミュニティ・スクール】評価運営委員会を開催し、コミュニティ・スクール移行に向けた検討を進める。
3	①保護者、施設の理解と協力を得た医療的ケアの円滑な安全実施をさらに維持向上させる必要がある。 ②緊急時や災害等に対する危機管理意識を高め、迅速に対応できるようにする必要がある。 ③安全な学習環境を維持するために巡回や時間による門扉の閉鎖、保護者パス等の利用を徹底する必要がある。	○児童生徒が健康で安全に学習できる学習環境を整える	①【安心安全の維持向上】ヒヤリハット報告による原因分析及ち注意喚起及び緊急対応訓練を通じた危機管理意識の保持向上を図る。医療的ケアに関しては、引き続き担当教員の育成を図る。医療的ケア体制整備事業に係る「校外行事等後補充モデル事業」に参加し、組織的に取り組む。 ②【災害、緊急対応】防災安全部やスクールバス部と連携し、危機管理意識の共有によりスクールバス緊急対応訓練や不審者対応訓練を通して緊急時対応への意識を高める。 ③【安全な学習環境、情報発信】門扉の閉鎖、保護者パスの利用を徹底する。HPやメール配信により迅速な情報提供を行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年 2月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・コロナが5類となったが、行事の運営のために細部への計画、配慮を感じたので、今後とも感染予防に努めて教育活動を充実させていただきたい。 ・様々なICT機器を活用することで、充実した教育活動につなげていただきたい。今後も引き続き、積極的に活用していただきたい。 ・先生方の明るさ、熱量を感じ、チームワークの良さも感じた。先生方の表情が大変良かった。引き続き、子供たちの教育活動を充実させてほしい。 ・感染症については、医療施設で今後も十分注意していく。感染力の強さを実感している。施設も人の入れ替わりがあるため訪問教教育部をはじめとして学校とは今後とも連携していきたい。	
・今後も地域と連携した学校づくりを図っていただきたい。川島中学校は、コミュニティ・スクールに移行し、和7年度に小中一貫校になる。川島ひばりが丘の取組も今後の参考とさせていただきます。 ・卒業して一般就労して、周囲の障害への理解が低いと感じた。自分の障害について周囲に伝える力を、ぜひ学校で身に付けられるように指導を行っていただきたい。	
・子供の怪我が生じた際に、学校で起きたことかデイスサービスで生じたのか、わからない時があった。日頃から学校とデイスサービスとの連携を深めていただけるとありがたい。 ・安心安全な学習づくりのためにも、ヒヤリハットの内容については、丁寧に分析して、今後の教育活動について役立てていただきたい。	